

ロイヤルメルボルン工科大学の学生 木版画づくり & 紙漉きを体験



6月26日(月)～30日(金)までの5日間、ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)の学生30名が道の駅和紙の里ひがしちちぶに滞在し、工房かみぐら(安戸、代表:高野勉氏)、日本版画会、東秩父村版画を楽しむ会、なめがわ版画クラブの協力のもと木版画づくりを体験しました。大学ではデザインを専攻する学生一人ひとりが、自身で考えたテーマで個性あふれる作品を作成し、学生同士で何を作るか一緒に考えたり、完成した作品を見せ合ったりと東秩父村でのひと時を楽しみ、満足できる作品に仕上がったようです。

また、木版画作成の合間に、和紙を漉くだけでなく乾燥工程等を体験する特別メニューを体験し、この和紙は帰国後にそれぞれのアート作品に使用されます。なお、学生たちの作品は、11月18日(土)～24日(金)まで東京都美術館で開催される「第64回日本版画会展」にて展示され、その後12月以降に道の駅和紙の里ひがしちちぶにて展示予定です。

この事業は、団体滞在型インバウンド「和紙アートプログラム」として、オフィスハーベスト(日高市、代表:武蔵聖子氏)が企画し、東秩父村和紙の里では初めての試みで、東秩父村の手漉き和紙や木版画の楽しさを世界に広めたいと、今後の継続実施が決定し、インバウンド事業としても期待されます。

とうもろこしってどんなお野菜？

7月4日(火)に槻川小学校で、小学1年生の児童たちがとうもろこしの皮むき体験をしました。管理栄養士の池田先生から、とうもろこしは野菜なのか？一番甘い収穫時期は？どのくらい成長するのか？をクイズ形式で学んでいました。

とうもろこしの皮を1枚1枚丁寧に数え、きれいにむき終えた黄金色に輝くとうもろこしは、その日の給食にも登場し、とても甘く、みんなでおおいしくいただきました！

また、とうもろこしの塗り絵にも挑戦！葉っぱの色も人それぞれ。みんな楽しくとうもろこしについて学びました。

